

くにの松原展望遊具の老朽化対策は

事故が発生する前に対策を取る



諸木 悦朗 議員

材にもコケが発生している。安全のため適切な対策は取られているのか。

適切な対応を取る

町長

現状では、今すぐに倒壊・破損等の心配はないと考えている。日々老朽化は進むことから、安

全確保のため、再度確認をして事故が発生する前に適切な対応を取りたい。

展望遊具の利用者数は

諸木議員

展望遊具の補修に、足場を組んでの作業となり、1000万円ほどの見積りと聞いている。展望台の補修か解体かの判断は難しいが、キャンプ場利用者が集まる特別な場であり集客につながると思う。展望遊具の利用者はどのくらいいるのか。

年間7700人

町長

松が成長し、展望台としての役割を果たせなくなってきたが、町外のキャンプ場には同様の施設は珍しく、利用者からは大変人気がある。令和元年度のプール・キャンプ場利用者の約9割近くを占め、利用者は年間約7700人であった。

コロナ禍での避難所状況は

諸木議員

9月に接近した台風10号は、報道等により猛烈に発達すると予報され、多くの住民が避難所に駆け込んだ。新型コロナウイルス感染症の対策と相まって避難所の開設状況はどうであったか。

避難所を8箇所開設

町長

勢力も雨も当初の予報よりは弱まり、大規模な災害、人的被害の発生もなかったが、新型コロナウイルス感染症対策として避難者同士の間隔を広げたことから予想より早く避難所が埋まった。当初6箇所から2箇所追加し、8箇所開設した。避難者は、257世帯、426人が避難した。

避難所ごとの差はないか

諸木議員

避難所は保健センター、体育館等を避難所としていると思うが、施設状況によって避難所ごとに違いはなかったか。

施設状況で差異はある

町長

町内に緊急避難場所が18箇所あり、施設によっては、畳の間やトイレがないなどの差異がある。

体育館にトイレ設置は

諸木議員

大丸小学校の体育館に避難したいが、トイレが施設内になく暴雨風のときに不便であると住民からの声があるが、設置できないか。

トイレ設置は難しい

町長

体育館等へのトイレ設置は難しいと捉えている。大丸地区の場合は、大丸改善センターに畳の間、トイレが整備されているので、新たな避難所として考えているところである。

※他質問

災害復旧工事の進捗状況

くにの松原キャンプ場にある高さ17mの展望遊具は、設置後相当年数が経過している。雨風による老朽化が見受けられ、一部天板など補強の箇所はあるが、危険度が増してきている。町長はこの状況を認識しているか。

老朽化は把握している

町長

展望遊具は、平成9年度に林野庁の流域総合間伐対策事業を活用して設置した。設置以来、20年以上が経過し、経年劣化による一部腐食などの老朽化は把握している。

安全面の適切な対策は

諸木議員

固定金具のねじ山も錆びて木



老朽化の著しい展望遊具